

神明社

千年の歴史 神々の里

伊勢神宮領榛谷御厨総鎮守



神明社ホームページ <http://www.shinmeisya.or.jp>
Yahooの検索「神明社 横浜」からです



[鉄道利用の場合]

JR保土ヶ谷駅より 徒歩8分
相鉄線天王町駅より 徒歩5分

[お車の場合]

首都高 横浜駅西口出口より・・・2.0Km
横浜新道 峰岡出口より・・・1.8Km
横浜新道 藤塚出口より・・・2.3Km
横浜新道 狩場出口より・・・2.7Km
横横道路 狩場出口より・・・1.8Km

〒240-0005 横浜市保土ヶ谷区神戸町107番地

神明社社務所

TEL 045-341-6365

FAX 045-334-2855

神明社の年間行事

- 一月 一日 歳旦祭・初詣
- 一月 十日 どんど焼き
- 一月 成人の日 成人奉告祭
- 一月 二十五日 末社天満宮初天神合格祈願祭
- 二月 節分の日 節分祭
- 二月初午の日 末社稲荷社初午祭
- 二月 十一日 紀元祭
- 二月 十七日 祈年祭
- 三月 春分の日 春分祭
- 四月 一日 末社切部之王子社日之王子社例祭
- 四月 十六日 末社蔵島社例祭・末社山神社山王社例祭
- 五月 十六日 末社雷神社例祭
- 六月 十六日 夏季例祭
- 六月 三十日 夏越の大祓
- 八月 一日 末社天満宮例祭・末社白鳥社例祭
- 八月 十六日 末社鹿島社例祭
- 八月 第四日曜 例大祭

- 九月 一日 末社風宮例祭
 - 九月 十六日 秋季例祭・敬老祭
 - 九月 秋分の日 秋分祭
 - 十月 一日 末社月読社例祭
 - 十月 十六日 神嘗祭遥拝祭
 - 十一月 一日 末社見目社例祭
 - 十一月 二十三日 新嘗祭
 - 十二月 十六日 末社火産社例祭
 - 十二月 二十三日 天長祭
 - 十二月 三十一日 大祓・古神札焼納祭・除夜祭
 - 毎月 一日 本社天照太神宮月次祭
 - 毎月 十六日 本社豊受大神宮月次祭
 - 毎月 十六日 初宮詣・七五三詣・安産祈願・虫封・厄除・交通安全
商売繁昌・合格祈願・旅行安全・工事安全・良縁祈願
神前結婚式等随時受け付けております。
地鎮祭・上棟祭・竣工祭・新宅入居清祓・井戸清祓等
出張祭事のお申し込みはお早めに。
- 上記の行事はどなたでも参列出来ます

神明社御由緒 (旧伊勢神宮領榛谷御厨総鎮守)

今から一千年以上むかし、保土ヶ谷の地が榛谷と呼ばれていた平安時代の中頃、天禄元年(九七〇)当社御祭神・伊勢の天照大御神が、武州御厨の庄の内、榛谷の峯に影向し、それから川井、二俣川、下保土ヶ谷の宮林へと三遷の後、嘉禄元年(一二二五)神託があつて、神明の下宮を造り、当地を神戸と号し、神宮寺を満福寺と名付け、経藏堂を神照寺と称したという。これにより榛谷御厨八郷の総鎮守として広大な社領を免ぜられ、宮司以下数十人の禰宜・社人・供僧・巫女が仕え、年に七十五度の祭祀を営み隆盛を極めたという。

その後、戦乱の時代に一時衰退したが、天正十八年(一五九〇)徳川氏入国の時、社殿の造営が行われ、四石一斗の御朱印地が安堵された。また元和五年(一六一九)宮居を神戸山々頂から現在の場所に遷し、社殿の造営、境内の整備が行われた。

明治二年の修営には、明治天皇御東行の時、本陣菊部清兵衛宅に臨時に建てられた鳳輦安置所の御用材を下賜された。明治六年村社に列せられ、神饌幣帛料供進の神社に指定された。

平成十年、鎮座一〇三〇年祭・当地遷座七七〇年祭・伊勢神宮鎮座二〇〇〇年祭を記念して「平成の大造営」が行われ、三八〇年ぶりに本社・撰末社・神楽殿等総ての境内建物十二棟が一新された。平成十二年、神奈川県神社庁献幣使参向神社に指定された。

御祭神
本社：天照太神宮 天照大御神
撰社：豊受大神宮 豊受大御神

御神徳
本社：天照太神宮 国家安寧 厄災消除 子孫繁栄
撰社：豊受大神宮 五穀豊穰 商売繁盛 殖産興業
社殿 社殿建築様式は、本社・撰社とも神明造
末社 末社十一社については左表の通りである
社宝 大太鼓 元禄三年奉納 (毎日使用している)
扁額 元禄十七年奉納 (拜殿正面にある)
例祭日 八月第四日曜日、及び六月十六日 九月十六日

末社名	御祭神	御神徳	根本社
一月読社	月読命 志那津彦命 志那津姫命	国土守護 農耕守護 防風守護 国土守護	伊勢神宮別宮 月読宮
二風宮	天照大御神 天忍穗耳命 瓊瓊杵命 日之王子社 彦火々出見命 鸚茅葺不合命	無病息災 子孫繁栄 癌封 国家安寧 厄災消除	和歌山県鎮座 切目神社 和歌山県鎮座 日之王子社
四鹿島社	経津主神 武甕槌命	武道振興 国土開拓	茨城県鎮座 鹿島神社
五雷神社	別雷命 中筒男命	農耕守護 海上安全	京都府鎮座 賀茂別雷神社
六白鳥社	日本武尊	国土開拓 国土守護	東京都鎮座 御嶽神社
六火産社	火産靈命	火防守護 竈守護	静岡県鎮座 秋葉神社
七山神社	大山祇命	産業守護 水利守護	神奈川県鎮座 大山阿付利神社
七山王社	大山咋命	五穀豊穰 家内安全	滋賀県鎮座 日吉大社
八巖島社	市杵島姫命	航海安全 交通安全	神奈川県鎮座 江島神社
八見目社	見目大神	航海安全 漁業振興 交通安全 眼病治癒	静岡県鎮座 白浜神社
九天満宮	菅原道真朝臣	学業成就 文芸振興 雷防除	京都府鎮座 北野天満宮
十稻荷社	宇迦之御魂神 素盞鳴命	五穀豊穰 商売繁盛 殖産興業 食物守護	京都府鎮座 伏見稻荷大社
十一水神社	水波能女神 御井神	水利守護 井戸守護 子授守護 安産守護	

■榛谷・保土ヶ谷・神戸

一説によりますと、保土ヶ谷の地は、その昔、幡屋郷と云われていましたが、平安時代の末期に伊勢神宮に寄進されたことから、「榛谷御厨」と呼ばれるようになりました。そして榛谷がなまって保土ヶ谷に、また神戸とは神宮のご料地であったことからきていると云われています。横浜市の東西南北端から中間距離を測ってみると、神戸町あたりがその中心になるそうです。

■伊勢神宮と神明社

伊勢神宮は、天照大御神をまつる皇大神宮(内宮)と、豊受大御神をまつる豊受大神宮(外宮)との総称です。天照大御神は天地の万物を照らしはぐくむ日の大神と称えられ、豊受大御神は生命の糧である食物を司る尊い神様です。伊勢神宮は国民の総氏神とも云うべき最高至貴の神社で、全国神社の根本社と仰がれ、特に本宗と呼ばれています。当社はその分社として千年余りの歴史を有します。

■本居宣長と神明社

当社社の江戸時代の神主岡田刑部は、国学者の本居宣長と姻戚関係にありました。刑部の孫娘りゆうが宣長の次男恭次郎に嫁いだことから、折々の書簡が残され、その多くが本居宣長全集に収められています。

■豊受大神宮の継ぎ接ぎ柱

豊受大神宮の御用材の一部に、江戸時代の初期に建てられた旧御本殿の木材を使用しています。柱に見える継ぎ接ぎの跡は、そのためです。